



伊豆の国市
議会だより

2019年11月1日発行

No.54

編集

伊豆の国市議会だより特別委員会

〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1

☎055-948-1417 FAX055-948-2913

<http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/>

7月臨時会・9月定例会

常任委員会報告 2~3

一般質問 4~9

議決結果・賛否一覧 10~12

議会の動き 12

天野の柿

総務観光建設委員会

会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について

■臨時職員、非常勤職員の内訳は。

平成31年4月1日現在で、正規職員は406人。非常勤職員300人、臨時職員6人。

■改定で支出増になるのか。

年間7500万円から1億円くらいの支出増となる。

■本条例をもって、パートタイムの臨時非常勤職員をフルタイムで雇用することを考えているか。

パートタイムは週29時間で雇用しているが、これをフルタイムに変更することは考えていない。

平成30年度一般会計決算

■合併特例債で、10年、20年後に、交付税がいくら伊豆の国市に交付されるのかという予測はできるか。

計算上はできる。これから借りる額、元利償還金等の設定から出るが、この70%相当が交付税額として交付されるのではなく、基準財政需要額に算入される。あくまでも計算上、算入額は100%交付されると思う。

■庁舎整備公民連携基礎調査業務は、どのような調査を行ったか。

官民連携による庁舎整備等を行っている先進事例6カ所について調査を行った。事業モデルの作成は、庁舎のあり方協議会で候補地として挙げた5カ所のうち、先進事例に当てはまるような3カ所を選び、モデルを作成した。



伊豆長岡庁舎

■庁舎整備の先進事例を見て、官民連携での可能性は。

事業モデルが実現可能かについて、民間業者の参入意向を調査している。

■4千万円の費用を投じたブレDCの効果はなかったのではないかと。

本番に向けたコマースシャルと、地域を巻き込んで地域資源を磨いて、商品をつくるという準備の年であったことから、費用に対する宿泊交流客数の効果については、測れないと考える。

■繰越明許費が約2300万円の深沢橋の架け替え事業は、県との協議で遅れているが、その理由は。

市道大101号線との交差点で、道路の線形と橋の高さ、河川断面、仮設橋について協議、検討している。また、地権者との用地交渉もしている。難航しているが、令和6年3月の完成を目指していききたい。

■深沢橋の架け替え事業は、県が補助することになった段階で詳細が決まっていなければならぬのでは。

基本的に、細かい部分については今協議をしている。

平成30年度下水道事業特別会計決算

■狩野川流域下水道維持管理負担金は、平成29年度が4億9千万円で平成30年度の決算6億2120万円。この負担金が大幅に上がっている理由は。

下水道の処理単価が平成29年度は1立方メートルあたり77円だったのが、99円に値上がりしたことが一番大きな原因。

平成30年度伊豆の国市上水道事業会計剰余金の処分及び決算

■市の埋設管の老朽管対策は、コンセッションでやるのか。

コンセッション事業は、伊豆エメラルドタウン地区のみ想定している。

閉会中の継続調査（令和元年7月8日）

かわまちづくり事業について、沼津

市・函南町を調査した。調査後の委員の意見は以下のとおり。

沼津市は国が整備した階段護岸で、親水性を求めた上土商店街の人たちが利用した。函南町は、河川から外れた部分を盛り土して、防災センターを作った。本来の目的から生まれた副産物であり、市民の憩いの場としての位置付けとなっている。伊豆の国市としては観光に結びつける点から言えば難しい。

伊豆のへそ運営会議の要望を受けて市の考えとも一致するので、今計画作りをしているというが、現場に行ってみるとして考えることが、アクセス面で条件的に厳しい。そこがされないと効果がない。

川を利用するにしても駐車場の確保も難しい。特に函南町と比較すると条件が悪い。整備にお金がかかるだけではなく、どのようにするかということも見出せない難しい立地条件ではないか。

費用対効果は非常に難しい。道の駅との連携は難しい。



沼津市「かのがわ風のテラス」

福祉文教経済委員会

伊豆の国市立幼稚園預かり保育条例の制定について

■第7条「特別の理由があると認めるときは、保育料を減額し、または免除することができる」とあるが、兄弟姉妹の授業参観により、本制度を利用する場合は減免となるのか。また、他に減免はあるのか。

現在実施している幼稚園預かり保育事業の要綱では無料となっているため、本条例においても、減免として定めた。それ以外の減免は、風水害で被災した場合などを考えている。

平成30年度一般会計決算

■コンビニ証明書交付サービスの利用件数は902件であり、市の負担が1件当たり約8800円となる。便利な割に費用がかかりすぎると考えるが。

今かかっている金額はコンビニサービス使用料570万円と負担金220万円、合計約800万円。利用の普及により単価が下がると考える。

■長寿祝金支給補助業務委託料、36万9854円の委託内容は。

77歳と88歳の方に、お祝いとしての商品券に係る作成や発送、商店で使用された商品券の回収等を商工会へ委託

していた。

■花咲く伊豆の国推進協議会交付金、500万円の用途は。

国道136号の葦山反射炉へ入る線路際に大きな花壇を作った。その他に、モデル花壇として新しい花飾りや、小さな花壇作りに使われた。



国道136号反射炉入り口 おもてなし花壇

■心身障がい者（児）タクシー等利用助成事業では、利用者が平成29年度730人、平成30年度822人と急激に増加した理由は。

平成30年度から郵送で受け付け配布を始めたので、その部分が増えているととらえている。

平成30年度国民健康保険特別会計決算

■レセプト審査事業の目的と内容は。

国保連合会へ委託し、診療内容が報酬の基準に基づいた請求か、重複した記載がないかなどの点検を行っている。

診療報酬の支払いとは別に、データが保険者にフィードバックされ、頻回受診の方や、同じような薬を違う病院で受け取っている方のリストの提供もある。これらの情報を市の保健師へ提供し、健康状態や重複受診になっている状況を調査し、適正な保険給付のできる事業へとつなげている。

■国保連合会審査支払い手数料では、一般の診療分が30円から40円に、柔道整復の分が104円から160円に値上がりしたのはなぜか。

保険診療の点検の強化で、国保連合会のほうで基準単価が変更になった。柔道整復が大きく上がった要因は、往診費用で細かな点検が必要となり、手数料を値上げした。

平成30年度後期高齢者医療

特別会計決算

■後期高齢者医療保険料は、県から納付金額が示されるのか、集まった保険料だけ納める形なのか。

現在のところ集まった分を納める形になっているが、目標の収納率は示さ

れており、平成30年度の目標収納率は99・3%で、当市は達成している。

平成30年度介護保険特別会計決算

■介護報酬返還金8万211円は、不正請求のあった1社からの返還金であるが、どのような内容か。

有料老人ホームだが、介護付きでないため、外部から介護に関するサービスを受けていた。このホームヘルパー派遣や関連するデイサービスの時間帯の計算の算定方法に不正があった。

平成30年度楠木及び天野揚水場

管理特別会計決算

■楠木揚水場維持管理事業の修繕費の内容は。

江間地区の排水路の修繕を実施した。

閉会中の継続調査（令和元年7月11日）

放課後児童教室、施設の整備状況について市内6小学校の現地視察を行い、運営状況や設備等の調査をした。



葦山小学校「第1放課後児童教室」